

社会教育研究部門

「青年の自立と教育文化」研究部会（第63回）

日時：2018年5月11日（金）14:00～16:00

場所：野間教育研究所 2F 閲覧スペース

出席：田嶋一・上野浩道・内藤俊史・齋藤智哉・青柳路子 各兼任研究員
吉久知延所長・金沢千秋・泉水里香

内容：（1）青柳路子氏の紀要原稿検討

◆「第7章 親を亡くした青年の『自助』と『連帯』—あしなが育英会の支援と教育文化から—」の第2節以降を中心に発表、全員で検討

・全体の構成案

はじめに

1. あしなが運動と青年

(1) 運動の原点—家族を亡くした青年たちの（投企）

(2) 支援の広がり：大学生の募金活動からの連帯へ

2. あしなが育英会の「教育」の取り組み

(1) あしなが運動における遺児教育の必要性とその変遷

(2) 「つどい」における「教育」

①つどいの組織体制

②つどいのプログラム

・マイライン（1）：自分を語ろう（自分史語り）

・マイライン（2）：自分の将来を語るプログラム

・「あしながさんからのお手紙（あしながさんアワー）」

③つどいにおける「教育」についての考察

(3) あしなが運動における「自助」と「連帯」の思想

3. 遺児たちの課題と自立に向けた歩みへの支援

(1) 死別とグリーフについて：先行研究から

(2) 遺児たちの自立に向けた歩みと支援

おわりに

（2）全員で意見交換

・「恩返し」という視点が日本的。「神なき国」でやっていくことの意味。玉井が81年以降、「自助」「連帯」を言わなくなったのはなぜか？（上野）

・「自助」には「自己責任論」「相互扶助」の二つある。「チャリティ」の思想が、どこから生まれてくるのか？ 玉井の「エリートイズム」はどなっていく？ 「育英」は優秀な人間を見つけ出し、支援することだが、それに馴染まない人たちは？ 宗教的なものと紙一重（田嶋）

・「コーピング プロセス」と重なっている（内藤）

・「マイライン」の自分史語りはカウンセリングみたいだ（齋藤）

・次回研究会は、2018年6月15日（金）14:00～。齋藤氏、第4章原稿発表。